令和８年度　第１回　勝山市子ども・子育て支援審議会　議事録

日　時　：　令和８年６月２日（木）　午後７時～８時００分

場　所　：　教育会館１階　ホール

出席者　：審議会委員　出席：１３名（増田会長ほか１２名）

（関係課）油谷教育長、健康体育課　宇都宮参事

（事務局）こども課　森課長、石橋課長補佐、岩岡係長　松井係長、木下

教育長あいさつ

油谷教育長　　今年度第１回目の子ども子育て審議会だが、今年度から新しく委員となって頂いた方に委嘱書をお渡しさせていただく。

この子ども子育て審議会は法律に基づき設置されており、自治体の子ども・子育てに関する施策や計画の推進、また、各種事業の実施状況などについて調査審議いただくことを目的としている。勝山市ではこれまでも子ども子育て支援事業計画を策定し推進してきた。現在の計画は第３期にあたるが、令和４年に施行されたこども基本法を踏まえ、子ども施策を総合的に推進するための「こども計画」として一体的に策定した。本日新たに委員に就任いただいた皆様には「こども計画」をお配りした。令和８年度は、この「勝山市こども計画」の２年目にあたる。ここで勝山市の子どもの状況について報告する。令和７年度の出生数は86人であった。令和５年度に初めて100人を割り86人、このまま減少が続くのではないかと心配したが、令和７年度には86人となり、多少持ち直した状況である。ただし、３年連続で100人を下回っているという状況に変わりはない。一方で、昨年度から市独自の「応援金115（いいこ）」をスタートし、子育て支援の充実と移住・定住促進を目的とした「115（いいこ）プロジェクト」を全庁的に進めてきた。その結果かどうかはまだ分析が必要だが、昨年度１年間の０歳から18歳までの子どもの転入・転出を比較すると転入が17人上回った。「115（いいこ）プロジェクト」もスタートしたばかりだが、一定の成果が見え始めているのではないかと感じる。今年度も引き続きしっかりと進めていきたいと考えている。委員各位には忌憚のないご意見をお願いしたい。

委嘱にあたっての説明

新委員の紹介　　残任期間の説明

会長あいさつ

増田会長　　現在、こども家庭庁発足以来、子どもを取り巻く法律や制度が大きく代わる時期に来ている。「こども性暴力防止法（日本版 DBS）」が国会を通過し、今年 12 月 25 日頃に施行される見込みである。保育園や認定こども園、学校、児童館等では、原則として大人と子どもが密室で 1 対 1 にならないようにすることや、新たに採用する職員については性犯罪歴の確認を行うことが求められる予定である。まだ詳細な運用は示されていないが、今後半年ほどで具体的な内容が示される。また、幼稚園教育要領・保育所保育指針や小学校の学習指導要領についても改定の時期を迎えている。園関係は令和９年度に周知期間、令和 10 年度から新指針に移行すると聞いている。これら国の動向も踏まえながら、この審議会で活発なご意見をいただきたい。

議事　（1）令和８年度　こども子育て支援事業について　資料１

石橋課長補佐から説明

質疑応答など

笠松委員　　子育て世帯訪問支援事業で直接家庭を訪問する「支援員」とは、どのような資格や経験を持った方なのか。

松井係長　　本事業は、大野市にある児童福祉施設（日の出善隣館）へ委託することとしている。支援員には福井県が実施している訪問支援員の研修会を受講してもらうことを契約上の要件としており、従事する支援員は既に研修を受け終えている状況である。

竹内委員　　保育園給食の実質無償化などの施策は子育て世代として非常に感謝している。ただ、制度が充実するだけでなく、それをどのように周知するかが重要だと思う。新規事業の「115（いいこ）みらい応援事業」では、市内イベントで PR するとあるが、市外や県外へ発信したほうがよいのではないか。この制度は移住・定住促進も目的としていると思うので、市外への PR をもっと意識した方がよいのではないか。何か市内に限定する理由があるのか。

石橋課長補佐　　資料には、市内のイベントと記載したが、直近で予定しているのが、市内の恐竜クロカンマラソンやトヨタガズーレーシングなどで PR を予定している。また、商工文化課と連携して移住者フェアや移住者交流会、東京勝山会、東京勝高会などの PR を行う予定。また「くろすかつやま」の公式 Instagram 等を通じても広く発信していく。

竹内委員　　県立大学の恐竜学部ができて勝山市に来る学生も増える。若者い世代に対しても、「勝山市はこういう支援をしています。」ということを知ってもらい将来的な定住につなげることも大切ではないか。

森　課長　　若い世代への周知も重要だと考えている。今後検討していく。

深谷委員　　115（いいこ）プロジェクトについて、転入者が増えたという話があったが、プロジェクトとして成功しているのかどうか、その判断はどのようにされているのか。単純にお金を配ったから人が増えたという話はないと思う。なぜ転入者が増えたのか、どの施策が効果的だったのか、分析が必要ではないか。

森　課長　　現在の段階でこのプロジェクトの成功・失敗を判断することはできないと考えている。ただ、18 歳以下の転入者が昨年度 17 人超過となるなど効果は見え始めていると考えている。要因分析については今後さらに進めていく必要があると考えている。移住者の属性や転入理由なども確認しながら、今後の施策に反映していきたい。

教育長　　私たちも事業を実施するだけでなく、しっかり検証していくことが大切だと考えている。現在、転入してこられた方々に対して、なぜ勝山市を選んだのかという聞き取りを行っている。勝山市の子育て応援事業や情報を見て、親戚などの地縁がないにもかかわらず勝山を選んでくれた方が多くいることを把握している。また、「応援金 115」が実際にどのように活用されたのかということを今後追跡調査を行っていく。次回以降の審議会には、そうした結果をご報告できればと思う。

増田会長　　大学で奨学金業務に携わっているが、最近は多くの自治体が同様の給付型奨学金を創設している。また、保育士養成向けに社会福祉協議会から返済免除条件（5 年間県内で働く等）付きの貸付金制度があったり、日本学生支援機構の給付・貸与型奨学金があったりと、学生側は複数の制度を重ねて利用しようとする傾向がある。何が大変かというと、どの段階でこの「115 奨学金」の情報が本人の耳に入るかによって、利用する優先順位や金額のシミュレーションが変わってくる点である。先ほど「他の奨学金を受けていない人」という条件が提示されたが、他の制度とどう組み合わさるのか、関係整理が重要になる。そのあたりも検討してほしい。

教育長　　高校 3 年生への周知が重要である。今が日本学生支援機構の予約採用の時期でもあるので、できるだけ早い段階で制度を知っていただけるよう取り組んでいきたい。

稲津委員　　勝山市では 115（いいこ）プロジェクトが PR されているが、「お金がもらえる」という部分ばかりが一人歩きしている懸念がある。私たち幼児教育に携わる側としては、子どもたちがどのような取り組みを通じて成長し、小学校へスムー

ズに接続し、将来 18 歳以降も勝山を担う人材になっていくかというソフト面を重視している。「かつやまっこ すくすくビジョン」を元に各園で 1 年間の計画を立てて必死に取り組んでいるが、そうした「教育・保育の質の向上の取り組み」についても勝山市の魅力として発信いただけるとありがたい。

森　課長　　ご指摘のとおり、金銭面的支援だけでなく、教育や保育の質についても発信していくことが重要だと考えている。例えば公式 Instagram での発信の際、各園のそうした教育活動の取り組みを取り上げるのは非常に有効だと考えるため、今後各園の取組についても発信できるよう検討したい。

議事　（2）令和8年度就学前教育・保育施設整備交付金に係る整備計画について　資料2

岩岡係長から説明

質疑応答など

若林委員　　今回この４つの園が対象として選定された基準や理由は何か。毎年対象園が変わるのか、それとも各園から申請があるのか教えてほしい。

岩岡係長　　毎年秋頃に市内のすべての園に対して、翌年度に実施予定の施設整備があるか調査し、園の申請により計画にあげている。

若林委員　　少子化が非常に進んでいる状況だと思うが、市の広報を見ても出生数は一桁台の月もある。令和６年度も 70 人台という話があった。20 年以上前から子どもの診察に関わっているが、本当に子どもの数が減ったと感じる。そうした中でも保育や教育に携わる方々には、今後も良い環境整備を進めていただきたい。

斎藤委員　　この計画は市区町村の施設整備事業として提出されると伺ったが、市からも独自の補助はされているのか。

岩岡係長　　先ほど説明しましたとおり、国の補助率は 1/2 で、残りの部分においては市が 3/10、事業者が 1/5 を負担する形になっている。

笠松委員　　今回４園が出ていたが、他の園については、調査の結果、特に整備の必要がなかったということか。

岩岡係長　　令和７年度は６園実施しており、毎年いくつかの園が実施している。調査した際に翌年度に実施したい園や２年後に実施したいという園もあるが、整備できない園がないようにしている。なるべく緊急性の高いものを優先して実施している。

笠松委員　　こども園の老朽化対策については公平な調査に基づいているとのことで理解した。少し話がずれるかもしれないが、小中学校の体育館の照明等について、子どもがバドミントンで様々な学校の施設を利用する際、照明が切れていて暗い場所が

所々見受けられる。子どもたちのために、暗いより明るい方がいいので、子どもに関係する施設全体という広い視点で、ぜひ小中学校の環境改善も検討してほしい。

教育長　　勝山市内には小学校が９校あり、一度にすべてを修繕することはできないが、学校施設の照明のLED化については現在計画的に進めているところである。合わせて、体育館のクーラーの設置工事も計画的に進めているため、ご理解いただきたい。

議事　（3）その他　教育会館改修の具体的イメージ・恐竜ジュニアアカデミーについて

森　課長から教育会館の改修フロア詳細イメージについて説明

畑中政策幹による恐竜ジュニアアカデミーについて説明

質疑応答など

笠松委員　　中学生や高校生にとって、この教育会館改修のメリットはあるのか。

森　課長　　３階部分には、中高生が放課後等に飲食やおしゃべり、勉強ができるカフェ的なイメージの「フリースペース」を設ける予定である。現在も１階ロビーで高校生が勉強している実態があるため、その居場所を正式に確保したいと考えている。また、周囲の声を気にせず集中して勉強や仕事に打ち込みたい人向けに、机と椅子をしっかり整備した「フリールーム（学習室）」も分けて配置し、既存の学習室の機能も残す形で中高生の学びの場を確保する。

石橋課長補佐　　６月４日のワークショップを経て、８月中に実施設計を完成させ、10～12月に契約手続き、令和９年１月頃から着工する。これに伴い、令和８年11月から教育会館の貸館を停止する。現在、ロビーのエアコン等に一部不具合があることも把握しており、テスト期間中などに多くの学生が勉強に利用している実態を考慮し、貸館停止期間中の代替措置として、「市民会館」のロビーの一角に中高生が勉強できる代替スペースをしっかりと確保して対応する。

山岸副会長　　教育委員会はどこにいくのか。

森　課長　　教育委員会については、現在の２階の貴賓質や和室があるエリアへ移転する予定である。

副会長閉会のあいさつ

山岸副会長　　審議会で委員から出された貴重な意見が、勝山市の施策がより良くなることへ結びつくと確信しており、感謝申し上げる。恐竜博物館の賑わいに加え、隣接する県立大学恐竜学部の設置、北陸銀行のアパート建設等など、勝山に人が増えている実

感を強く持っている。異業種交流会やジュニアアカデミーなど、恐竜好きの人だけでなく多様な人々が勝山に来てくれることを期待している。自身は「租税教育」という形で子どもたちに税金の話を伝えるため、３年かけて奥越市内のすべてのこども園を回っており、今年から２巡目としてバージョンアップして各園を訪問しているが、勝山の子どもたちは非常に元気で、いつもたくさんのエネルギーをもらっている。この子どもたちが元気に安心して暮らせる勝山市になるよう、皆で知恵を絞っていきたい。